

天才アート KYOTO



天才アートとは、障
 碍のある人の多くがもつ
 優れた感性と表現力、
 そこから湧き出る独
 創的なアート作品に対して、特定非営
 利活動法人 障害者芸術推進研究機構
 (天才アート KYOTO) が独自にネーミ
 ングしたものです。当機構は天才ア
 ートを推進し、その啓発・普及活動を積
 極的に行っています。



発行日 2020年5月20日(火)

発行者 特定非営利活動法人
 障害者芸術推進研究機構

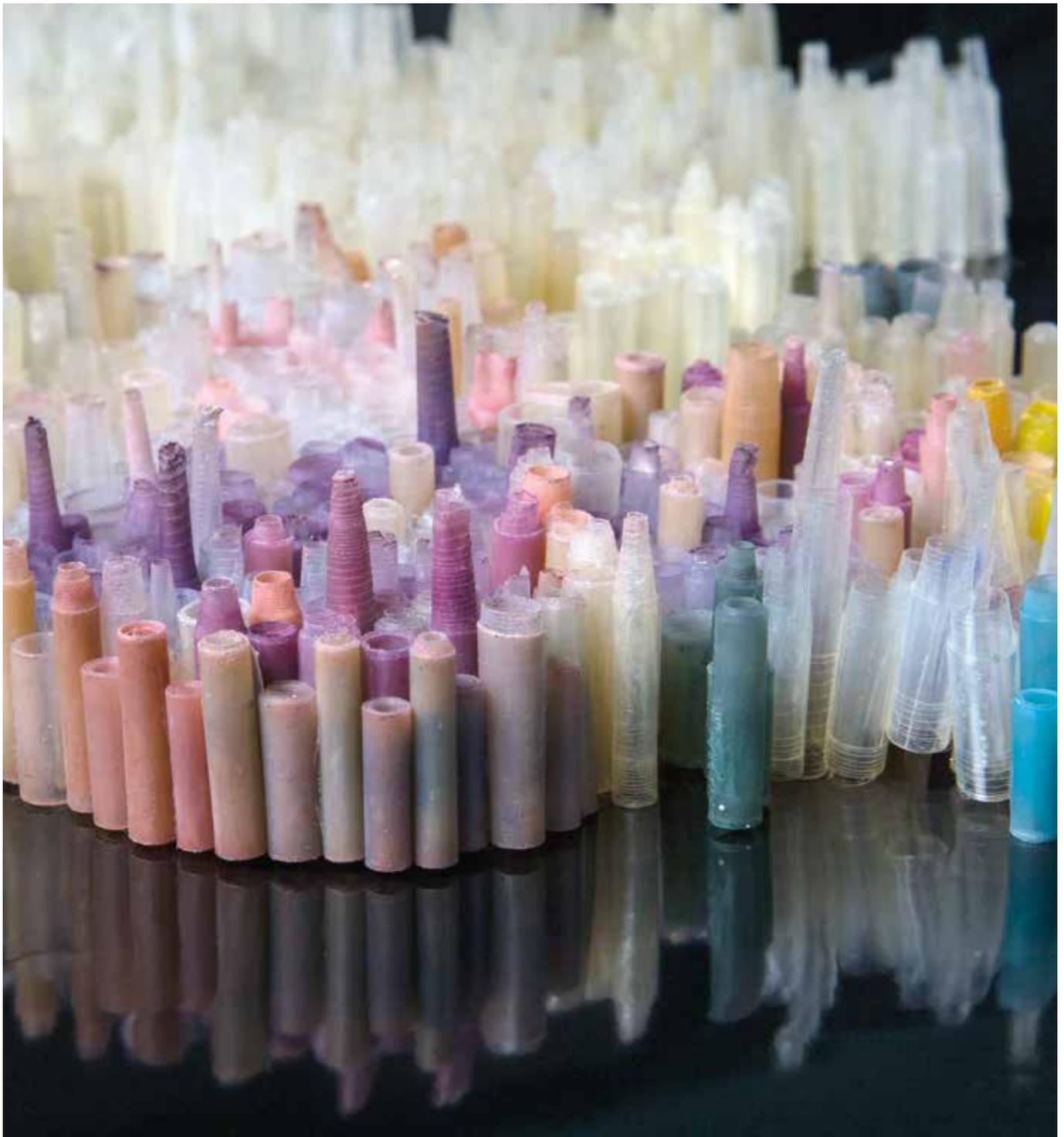
天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
 京都市東山区大和大路四条下る
 4丁目小松町 四条・新道アトリエ
 info@tensai-art.kyoto
 http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



『増殖するバルブアクション (部分)』石原 寛子 Hiroko ISHIHARA 1999 年生 W420×H350×T50mm スコッチテープ・クレパス



四条通り地下通路アートポスター展

『天才アートがやってきた!!』公共空間にアートの彩り』

四条通地下通路の「アートポスター展」を昨年12月3日よりこの2月24日まで、84日間にわたって開催しました。

本展示は、公共の地下通路や連絡通路など、ややもすると無機質になりがちな空間に、天才アートKYOTOの作品アーカイブを活用した「アートポスター」を展示し、行き交う人々にアートの潤いを醸し出しんでもらうものです。2018年度の第1回は京都駅の新幹線下自由通路に2カ月間展示しました。昨年度は今回と同じ四条通りの地下通路の別の場所に展示し、本年度で3回目となりました。

今回の展示場所は、地下通路の内、麩屋町通付近から西へ柳馬場通付近までの約150m間で、通路の中央にある柱列37本の南北両面に、B1判サイズ(タテ1030×ヨコ728mm)の作品ポスターパネル70点と説明パネル4点を設置しました。会期中の通行者数は約64・8万人で、不特定多数の市民や観光客に愉しんでもらえました(人数は2018年の阪急電車による通行者数調査による推計)。

会期中、前2回と同様に当機構のホームページやSNSに「展示を見ましたが素晴らしい。今後も続けてください」など展示趣意に賛同するコメントや、「作品ポスター



展示されたポスターを見ながら歩く多くの通行人

を「買いたい」「作品は購入できませんか」など、作品ポスターや作品原画の購入の問い合わせも多く届き、何件かの成約がありました。作品ポスターや原画販売などによる収益は、作家に還元しています。

*本展は、令和元年度京都市下京区役所の「京都市下京区民が主役のまちづくりサポート事業」補助金を受けて実施しました。

また、展示に当たり同地下通路を所有す

る阪急電車と京都市あるくまち京都推進室に協力をいただきました。

*展示に当たっては、ポスター額装から設営作業まで、登録ボランティアの方々はじめ大谷大学 Media Worksの倉光さんにご協力いただきました。

*本事業に展示しました「作品ポスター」は購入することができます。詳しくは当機構ホームページよりお問い合わせください (www.tensai-artkyoto)。

『天才アートKYOTO展2020』の開催について

第8回目の『天才アートKYOTO展2020』は、新型コロナウイルス感染症拡大による状況を踏まえ、当初の6月から秋季に延期して開催することとしました。

会場につきましては、今回は東山区にある当機構の『新道アトリエ』をメインに開催することとしました。この機会に新道アトリエを広く一般公開し、天才アートKYOTO展2020と合わせて見学していただくことを考えています。

今展では、アトリエを会場とする利点を生かして、制作上の作品などもアトリエ内にそのまま残し、天才アートKYOTO



会場となる新道アトリエ

の作家の制作スタイルや制作エネルギーを実感いただけるような展示方法を工夫する予定です。

また、今展を秋に延期した機会を活かし、INSTIUT FRANCES 関西が毎年第1土曜日に開催されている『ニュー・ブランシユ京都』に協賛いたします。

詳しい内容は今後具体化していきます。詳細が決まり次第お知らせしますので、ご期待ください。多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

『天才アートKYOTO展2020』

会期：20年9月29日(火)〜10月4日(日)

時間：11時〜17時(ただし、ニュー・ブラン

シユ京都の10月3日は20時まで)

会場：新道アトリエ/京都市東山区四条通

大和大路下る4丁目小松町130

ご家族さま
より寄稿

アトリエ会との出会い

清水美津子

●誕生から高校卒業まで

「1991年1月1日 元旦 晴れ」。何とおめでたい日に生まれたのかと思つたのもつかの間、2日後には日赤に転院し、保育器に入り、チューブにつながれた姿を見て愕然としました。担当医から染色体検査結果を見せられて「21ソミトリ・ダウン症です」と告げられ、障碍を理解する時間も、受け入れる気持ちの余裕もないままの、初めての子育てが始まりました。

ひきこもりのような1年が過ぎた翌春、担当医の勧めで二条の児童福祉センターに少しずつ母子通園するようになりました。そこでは、保育士さんから手遊び歌や体操を教わったり、さまざまな障碍の子供たち、兄弟姉妹と出会い、お母さんたちとはとりとめのない話をしたりして勇気づけられました。

それから主人と話し合つて、地域で普通にちよつと手の掛かる子だ、ぐらいの気持



自作の作品ポスターと元介さん

ちで育てようと決めました。

保育園は、健常児との総合保育に熱心な園に通いましたが、小学校はそれまで地元で育成学級がなく、近隣の越境通学の予定でした。ところが、ちようど入学の年にひとりでも希望者があつたら開設できるよになつたと知り、下鳥羽小学校の校長先生・教頭先生にお願いして育成学級を作ってもらいました。

小学校での普通学級との交流や集団登校、児童館の学童クラブなどいろいろなことを体験し、中学校でも大丈夫と思ひ地域の伏見中学校育成学級に進みました。音楽や美術・体育などの授業、体育祭・文化祭・コンサートホール合唱コンクール・修学旅行など同学年の生徒との思い出はいっぱいです。

高校は京都市立呉竹総合支援学校に進みました。義務教育課程との違いに戸惑うこともありました。支援学校の生徒と後々まで友達と呼べる関係が築けて良かったと思います。

●元介の色彩感覚とアトリエ会

呉竹を卒業し、これから社会に出て毎日決められた仕事（作業）だけの生活でどうかなあと思つていたある日、呉竹の先輩のお母さんから電話がありました。

「呉竹の校長先生が退職され、卒業生で



姉妹都市のザグレブ市に贈られた「赤い犬」

絵の好きな人が自由に描く会を企画されているので参加しませんか？」とお誘いを受けました。しかし、その時は「デッサンを教わつたこともなく、気ままに遊びで描いているので無理です」とお断りしました。

後日、校長先生からも電話をいただき、「呉竹の時に描いた元介君の絵の色使いが良い、面白いです。会では何かを教えたり強制したりもしません。制作する場所と画材を提供するだけです。自由で描いてください」と言われました。

その時に思い出したのが、中学校の美術の時間に制作し、クロアチアのザグレブ市との姉妹都市交流の作品に選ばれた『赤い犬』です。何だかわからない不思議な絵の中に、真っ赤な犬が描かれていました。

また別の絵では、お茶碗に紫色したご飯が盛られていたり、カエルがピンク色だったり、なんと変わった色彩感覚をしているんだらうと思つていました。もしそれが面白いと言われるのなら、本人が描くのが好きなのなら続くだろうとアトリエ会への参加を返事しました。アトリエ会は、伏見区役所のフリールーム、呉竹の空き教室、そ

の後、現在の旧新道小学校へと場所は移りました。

●カラージュ手法への取り組み

何年か過ぎた頃、色も塗り終え、やつとできたかと思えた作品をチョコチョコとハサミで切り抜きました。何をするのかと見ていると、別の描き終わって置いていた作品に糊付けが始まりました。切り抜いた人物の片手が画用紙からはみ出したり、重なつたりするのも「このまま」と、満足そうに作品をアトリエ会のスタッフに見せています。

何で切つたり貼つたりするのか、せつかくの絵なのに意味が分からないとスタッフに尋ねると、「カラージュやね」と笑つて答えられるので、「何でもありなんだ!! 自由な発想で本人の作品を認めることなんだ」と、ハツと気づかされました。今ではわが子以外の作家の作品を見るのも楽しく、面白いと感じられます。

それから、あの画用紙からはみ出したカラージュの作品は、「つづく」と言つて次の画用紙に向かっています。

偶然の巡り合せでアトリエ会に参加し、そこで描いた作品が展示され、元介の絵だと気づいてもらい、エールが届くのも励みになります。今日までの多くの方々をサポートが今の作風へと繋がっているのだと感謝しています。

これからも人が好き・音楽が好き・いろんな色が好きという元介の作品が描き続けられることを願っています。

調査報告

文化庁委託事業 『令和元年度 障害者による文化芸術活動推進事業』 に関する欧州事情調査 (前編)

文化庁委託事業 『令和元年度 障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト』の一環として、当機構プログラム・ディレクターの伊東が欧州三国 (フランス・スイス・オーストリア) へ事情調査とマーケット開拓のための交流、およびPRを行いました。会報では前後編と分けて報告を掲載したいと思います。

アール・ブリュット・コレクション (スイス・ローザンヌ)

「アール・ブリュット・コレクション」は、1945年から1971年にかけてジャン・デュビュッフエにより集められた5千点に及ぶアール・ブリュット作品を、コレクションの後継者としてローザンヌ市に寄贈する形で1976年にオープンしました。現在では、1000人の作者からなる7万点に及ぶ収蔵作品は世界的に著名であり、「アール・ブリュット・コレクション」はいわば「アール・ブリュットの聖地」でもあります。

現地ではスタッフのソフィー・グイヨー (Sophie Guyot) 氏とお会いして、知見やシステムをヒアリングし、交流を行いました。一般的に多くの美術館は、ホワイト・キューブと呼ばれる白い壁面で構成されているのに対し、壁面は全て黒く塗られており、この壁面一つにとっても、「通常の美



スタッフのソフィー・グイヨー (Sophie Guyot) 氏と

術館とは違う」という明快なスタンスの表明でした。これは名称に「ミュージアム」とつかないことや、建物も酪農家の家屋を改築して作られたことから、「アール・ブリュット」の提唱者のジャン・デュビュッフエの反美術界の意識を汲み取っているといえるでしょう。

またアール・ブリュット作品の形態は多岐にわたるため、額装や設置方法を規格品で補うことはなかなかできません。そのため、「アール・ブリュット・コレクション」には専門のインストーラー (展示設置者) が常勤しており、展示什器や仮設壁だけでなく、テーマに合わせて額装も作成されています。展覧会企画者の意思を汲み取りやすく、ひいては「アール・ブリュット・コレクション」の一貫性を築くことを助けていました。



コレクション外観、酪農家の家を改築されているため、内部も、展示会場に屋根裏を使用したり、かなり入り組んだ構造になっています。



常設展にあたるスペース。壁面は全て黒く塗られており、作品にあわせた独自の額がつけられています。



滞在時 CARLO ZINELLI の個展が行われていた。作品が両面に描かれているため、両面から鑑賞できるように展示設計されています。

ガブリエル・センター
 (エガール、色彩と創造のデイケアセンター)

2018年、京都市・パリ市の友好都市締結60周年を記念して京都とパリの障害者アート作品を紹介する日仏交流展覧会に参加したエガール代表のマリー・ジロー(Marie Girault)氏にお会いしてきました。

視察したのは「ガブリエル・センター」という「エガール」の母体ともいうべき場所、ワークショップの施設である「色彩と創造のデイケアセンター」での先進的なデジタルファブリケーションを用いた教育システムについてプレゼンテーションを受けました。

色彩と創造のデイケアセンターでは、エガール協会憲章の理念「協会は、誰もが自らの出自、状況、社会的背景、職業のおよび個人的な経歴、障害、病気などに関係なくアートクリエイターになることができる」という原則を定めています」を踏襲し、作家個人の人格を最大限に尊重してワークショップが行われていました。

精神科医とも一緒に組まれたプログラムは、アーティストであるガエル・ルセル(Gaël Lecerf)氏が色彩と創造のデイケアセンターで毎週行っており、「ダンス」「デジタルファブリケーションを含むニューメディア」「メディアアート」をもちいた「パフォーマンス」等をテーマに行われています。

ワークショップでは、ただ作品制作方法を教えるのではなく、ダンス観劇やデジ

タルファブリケーションでの制作など、第一線で活躍する美術作家とガブリエル・センターの作家とのコラボレーションを通じて行われていました。日本の障害のある作家への制作活動のサポートでは、作家本人の制作活動を補助する環境設定を指すことが多いのですが、ガブリエル・センターや色彩と創造のデイケアセンターでは、そこから一歩踏み込み、一人の作家としての成長の機会を積極的に提供するプログラムが組み込まれていました。



「色彩と創造のデイケアセンター」の建物。中で毎週プレゼンテーションやワークショップが行われています。ガブリエル・センターと色彩と創造のデイケアセンターは隣接していますが、出向くには一旦外に出て、また入りなおさなくてはなりません。それはガブリエル・センターの入居者がセンター内で全てを完結するのではなく、意図的に「社会との接点を持つこと」に重きを置かれていたためです。

また、教育システムだけでなく、欧州のアート・マーケットの実情なども意見交換を行いました。作品販売にあたり、「ただ売ればいい、収益をあげればいい」というスタンスではなく、組織の中心にあるのは作家個人を社会の中の一員として構成させようという人権意識でした。当機構にとってエガールは、ひとつのロールモデルといえる組織であり、今後の継続的な交流を約束して後にしました。

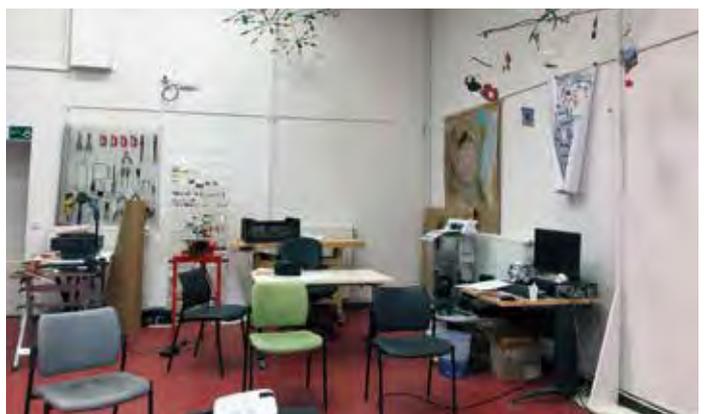
(後編へ続く)



写真左から、筆者の伊東、マリー・ジロー (Marie Girault : EgArt Chef de projet)、サミュエル・シャルドン (Samuel Chardon : Centre de la Gabrielle)、ガエル・ルセル (Gaël Lecerf : Couleur & Création)。後ろには3Dプリンタなどデジタルファブリケーションの機材が揃っています。



ガエル氏よりプロジェクトのプレゼンテーションを受けました。ワークショップではスライドを用いた講義なども行われているとのこと。



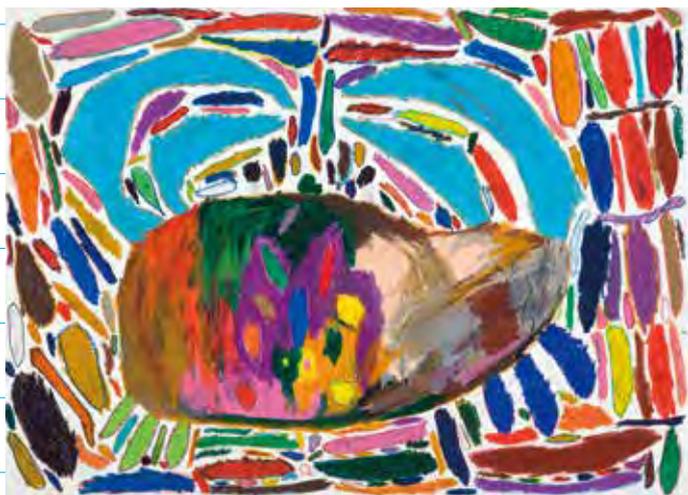
毎週、ワークショップが行われる色彩と創造のデイケアセンター内部。

高島 晃平 Kohei TAKABATAKE
1991年生

高島は時に何枚もの大きな紙を貼り合わせ、クレパスを用いてダイナミックにカラフルな動物達を描く。しかし、最初からそのような画風だったわけではない。当初は現実の動物の色に近い絵を描いていたが、長い時間をかけてゆっくりと現在の画風を築きあげていった。現在の想像力に溢れたカラフルな動物たちを、ただの画風の変化と言ってしまえば味気ない。別の見方をすれば、高島は継続的に描くことによって、動物たちを現実の世界から、彼独自の想像の世界へと連れていくことができるようになったといえる

TENSAI
ART
NOTE

天
オ
ア
ア
ノ
ー
ト



高島 晃平

上『シマウマ』 2020年 W1,095×H790mm、画用紙・クレパス
下『オウギガニ』 2020年 W1,095×H790mm、画用紙・クレパス
右『アオサギ』 2019年 W790×H1,095mm、画用紙・クレパス

本 ちはる



2点とも『無題(反復)』 2017年 W130×H315mm、画用紙・ボールペン



本 ちはる Chiharu MOTO 2003年生

アーティストには、「同じモチーフやタッチを継続して深める」タイプと「作風を変え続ける」タイプがいる。本は後者にあたり、彼女の興味によって1年単位で作風が変わり続ける。一見、違う作家の作品と思えるほど作風は変化するが、一貫して「反復」「漫画やキャラクター」「文字」「食事と排泄」等がテーマとして出てくる。現在、まだ若い彼女の作品は断続的な作風に見えるかもしれない。しかし、作風を変えながらも一貫したテーマで蓄積されていく作品群は、星を連ねると星座が描けるように、いずれその全貌を表すことになる。

上『無題(ノンタン)』 2013年 W250×H175mm、画用紙・カラーペン
下『無題』 2015年 W365×H255mm、コピー用紙・ペン

道家 大偉之 Taishi DOKE 2001年生

道家の制作は世界中にあふれる風景やイメージからモチーフを探し、選ぶことから始まる。海外の歴史ある古城やタヌキの置物が並ぶ信楽の風景などが彼の目によって選ばれ、そして肉厚なタッチで、適度にモディファイされてキャンバスボードに描かれる。そうしたプロセスを経て描かれた彼の絵が壁面に展示された時、観客は絵を「窓」のような感じ、どこか「旅をしている」ような感覚になる。その時、観客はモチーフを選ぶ彼の目と感受性を追体験しているのかもしれない。

道家 大偉之



『湖に浮かぶ古城』 W355xH245mm、画用紙・アクリル絵の具



上『信楽』 W355xH245mm、画用紙・アクリル絵の具

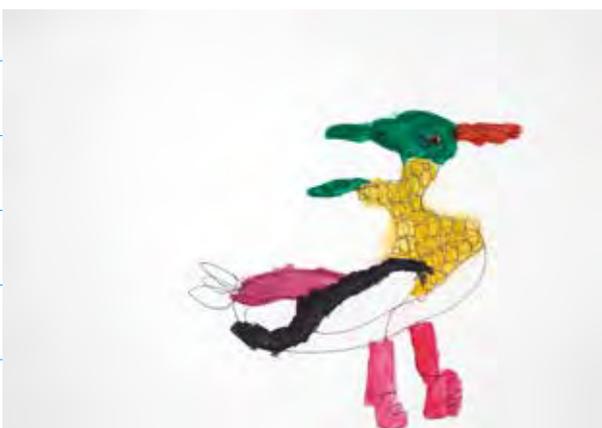
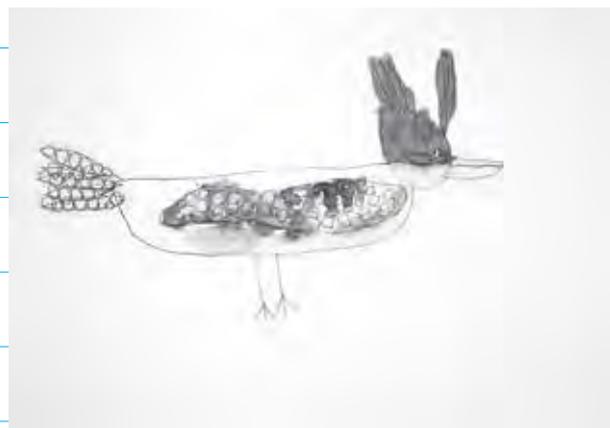
下『灯台のある風景』 W355xH245mm、画用紙・アクリル絵の具

長村 駿 Suguru OSAMURA 1991年生

長村はドローイングで動植物を描く作家である。鉛筆やクレヨン、水彩絵の具を用いて即興的に描き、彼の手によって生み出された生き物たちは、どこかユーモラスな印象をもって、観る人の頬を緩ませる。そして同時に、魚の鱗や植物の葉、鳥の羽を描く時、必ず反復された形状が表出する。そのことは生物の多様性を感じると同時に、あらゆる動植物はどこかつながっていることさえも感じさせるのである。

長村 駿

右『ヤマセミ』
2018年
左『アカショウビン』
2018年
全てW381xH217mm、
画用紙・ペン・水彩絵
の具



右『ウミアイサ』
2018年
左『金魚』 2019年
全てW381xH217mm、
画用紙・ペン・水彩絵
の具

作品アーカイブ公開!! PRチラシを制作

天才アートKYOTOでは、登録作家の作品1400点をデジタル・アーカイブデータとして収録し、広く一般に公開するプロジェクトをスタートさせました。

今般、そのプロジェクトをPRするチラシを制作しましたのでお知らせします。

【以下チラシの文面より】

天才アートKYOTOでは、2015年度から、作品のデジタルアーカイブ保存の取り組みをスタート。同年9月より新道アトリエ内に専用の撮影スタジオと撮影機材などの設備を整え、順次、作品の撮影を進めてきました。その結果、現在までに約1400点の作品をアーカイブ保存し、これからも更に

『増殖するバルブアクション』について
石原寛子 1999年生 W420xH350xH50mm スコッチテープ・クレパス 2019年

天才アートKYOTOのデザイン活用プロジェクト開始!!
アートのかを生かす、広げる

チラシうら面

チラシおもて面

充実させていく予定です。

この度、そのアーカイブデータをホームページ上で公開し、天才アートKYOTOの作品の活用を希望される企業や組織団体、個人の皆さまに作品アーカイブデータを提供させていただきます。サービスを開始します。

作品画像データをさまざまなメディアや製品、パッケージなどのアイテムにデザイン活用していただくことで、CSRへの取り組みとして企業の価値を向上させたり、あるいは製品の付加価値を高めたりといった効果が期待できます。そして、作品アーカイブデータ使用料に含まれる著作権料を作家に還元することで、障碍のある人の自立と社会参加につながり、共生社会の実現にも貢献することになります。

詳細は当機構ホームページをご覧ください。
ご利用をお待ちしています。

(天才アートURL: www.tensai-art.kyoto)

会員・寄付および ボランティアさんを募集しています

支援していただける会員や寄付、また活動をサポートしていただけるボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページに掲載していますので、ご覧ください。よろしくお願ひ致します。 <http://tensai-art.kyoto>

広告主さま募集中!

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。
1枠(55×22mm)：1万円(4回掲載)
●お問い合わせ・お申し込みは: info@tensai-art.kyoto

〔編集後記〕

会報22号を発行した1月末からわずか3カ月のあいだに、世の中は新型コロナウイルス感染症の拡大によって異常事態宣言が発令され、経済や社会生活にさまざまな問題が発生しています。

文化芸術活動も例外ではなく、展覧会やアートフェアなどはことごとく中止や延期となり、創作活動にも支障が出ています。とはいえ、こういう時にこそ文化や芸術が人々のこころに潤いを与え、生きる勇気を与える存在だともいえます。文化庁の宮田長官も、この困難のときこそ、日本が活力を取り戻すために、文化芸術が必要だと信じ、「日本の文化芸術の火を消してはなりません」とコメントを発表されています。

当機構においても思いは同じで、昨年は諸般の事情で中止となった「天才アート展2020」を今秋に開催すべく準備を進めています。詳細決定はこれからになりますが、アトリエ再開後は成功を期して制作活動に励んでいただけたら幸いです。

【表紙の作品について】

石原の作品を前にした時、多くの人の目にはただの「テープをまるめただけ」のように映るかもしれない。しかし、その制作過程を知ると大きく印象が変わるはずだ。彼女は自分自身の腕に一度テープを貼り、そしてテープを剥がしながら丸めている。さらに色が付いているテープは、紙にクレヨンを塗り付け、そこに手のひらをこすり付けて着色したところにテープを貼り付け、転写することで作る。それはまさに彼女の皮膚の転写によってつくられた作品ともいえ、決して「テープをまるめただけ」ではない。増殖する細胞のように、さらには肥大化する未来都市のようにも見ることができるのである。



『増殖するバルブアクション(部分)』
石原寛子 Hiroko ISHIHARA
1999年生
W420xH350xH50mm
スコッチテープ・クレパス
2019年

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎075-692-3131

広告協賛企業 (順不同)
わたしたちは天才アート KYOTO の活動に賛同しています

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホームエンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

HAGURUMA

Kuretake

吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院